

▶▶ APCommunications

ACS事業部 Culture Deck

会社概要 ————— 3

ACS事業部 ————— 7

事業内容 ————— 13

戦略と実績 ————— 26

チーム情報 ————— 33

人事制度 ————— 48

福利厚生 ————— 52

採用について ——— 57

会社概要

COMPANY

会社名	株式会社エーピーコミュニケーションズ
所在地	東京都千代田区鍛冶町2丁目9番12号 神田徳力ビル 3階
設立	1995年11月
資本金	92,500,000円
従業員数	478名（2024年4月現在）
事業内容	システムインテグレーション事業、 技術者派遣事業、研究開発事業、 サービス開発事業
主な取引先	株式会社エイチ・アイ・エス イオンネクスト株式会社 鹿島建設株式会社 株式会社 JAL インフォテック SOLIZE株式会社 etc...



業界にとっての新しいSIのモデル「NeoSler」

エーピーコミュニケーションズ（APC）は、お客様のことを真剣に考えられるエンジニアを育成し、熱狂できるキャリアパスを創出し、パフォーマンスを最大化できる環境を創り、従来の慣例に捉われずに工夫と挑戦を行い続けるNeoSler（ネオエスアイヤー）です。

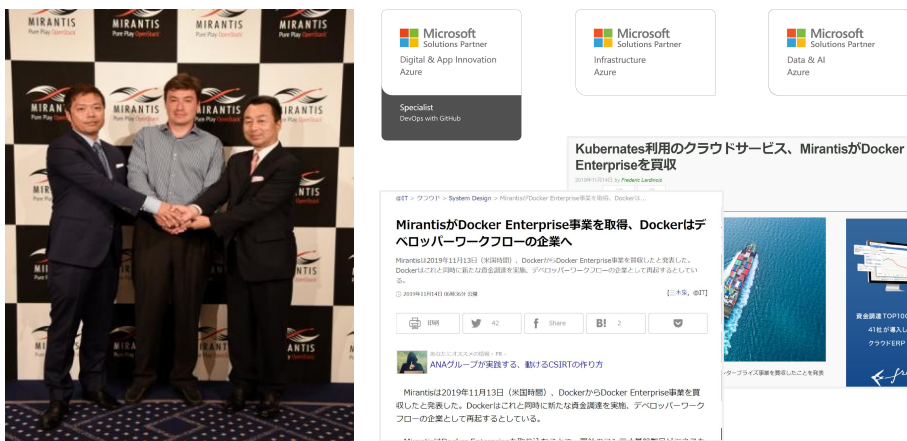
NeoSlerとは・・・？

私たちは、エンジニアとお客様が共に笑顔になれる未来を創るために「お客様のことを真剣に考えられるエンジニアを育成し、熱狂できるキャリアパスを創出し、パフォーマンスを最大化できる環境を創り、従来の慣例に捉われずに工夫と挑戦を行い続けることができるSler」になる必要があると考えています。

また、このようなSlerを私たちは NeoSler と定義しています。

SIのDX化

攻めのDX/AI内製化・Microsoft Azure



- NeoSlerを掲げ、DX時代に必要なSIモデル変革に挑戦。DockerEnterpriseを買収したMirantisとのジョイントベンチャーを設立。
内製化支援、Platform Engineeringの推進、自社事業のDX化、ネットワーク自動化、SASE(ゼロトラスト)サービス、AI駆動開発、AIエージェント開発推進など。
- マイクロソフトのパートナー制度、DevOps Specialization、SolutionPartner (3カテゴリ)に認定。
- Microsoft主催「生成AI事業化プログラム」Advanced Partner認定

Engineer driven (エンジニア文化の育成)

Azure有資格者100名以上

エンジニアリングメンター室

- ・メンタリング (相談窓口)
- ・人事制度提案

月間6万PVを超える技術ブログ

- ・ <https://techblog.ap-com.co.jp/>
- ・ https://zenn.dev/p/ap_com

学習支援

- ・ Udemy/Ping-t
- ・ 資格支援
- ・ Azure、AWS検証環境の提供

APアカデミー(社内大学制度)

社内外技術イベント開催

- ・ TechTalk
- ・ 8a1
- ・ インフラエンジニアBOOKS

様々な技術イベントへの登壇

- ・ Azure Tech Days
- ・ JANOG51 Meeting
- ・ クラウド女子会
- ・ Internet Week

様々なコミュニティへの貢献

- ・ Platform Engineering Meetup
- ・ Cloud Native Days
- ・ wakamonog

- コミュニティ登壇・blog・技術イベント・エンジニアメンター制度など、エンジニア中心の組織文化を構築。
- 社内大学制度APアカデミーなどを生かし、Azureの有資格者は100名以上、AWS認定資格取得数は300以上。

ACS事業部

ACS DIVISION



共に熱狂しよう

我々は、NeoSlerをコンセプトに、日本を元気にするため、ITが企業のビジネス価値を生み出すための、新しいモデルのSIの形を作り出すことを目指しています。本事業はその為に、新規事業として立ち上げました。

顧客向けには「アジャイル開発などのITの内製化・DevExの向上」、エンジニアやコンサル向けには「技術ドリブンのビジネスモデルの構築」、その二つを軸に、ビジネスを構築しています。

是非、上記のような志に賛同頂けるみなさんと一緒にビジネスを盛り上げたいと考えております。ご興味のある方まずはカジュアルに話をさせて頂きたいです！

株式会社エーピーコミュニケーションズ

取締役 ACS事業部長 上林 太洋

Platform EngineeringやAIを活用し、 DevExの向上でお客様のDX内製化を推進する

ACS事業部はNeoSierの新たなSIモデルとして、エンタープライズ企業のDX内製化を推進しております。
内製化推進のためのお客様開発組織のDevEx（DeveloperExperience）向上をミッションに、Platform Engineering、Microsoft AzureのプラットフォームやAI技術を活用しセルフサービス化されたSIを確立・提供し日本企業のデジタル化を加速させて参ります。

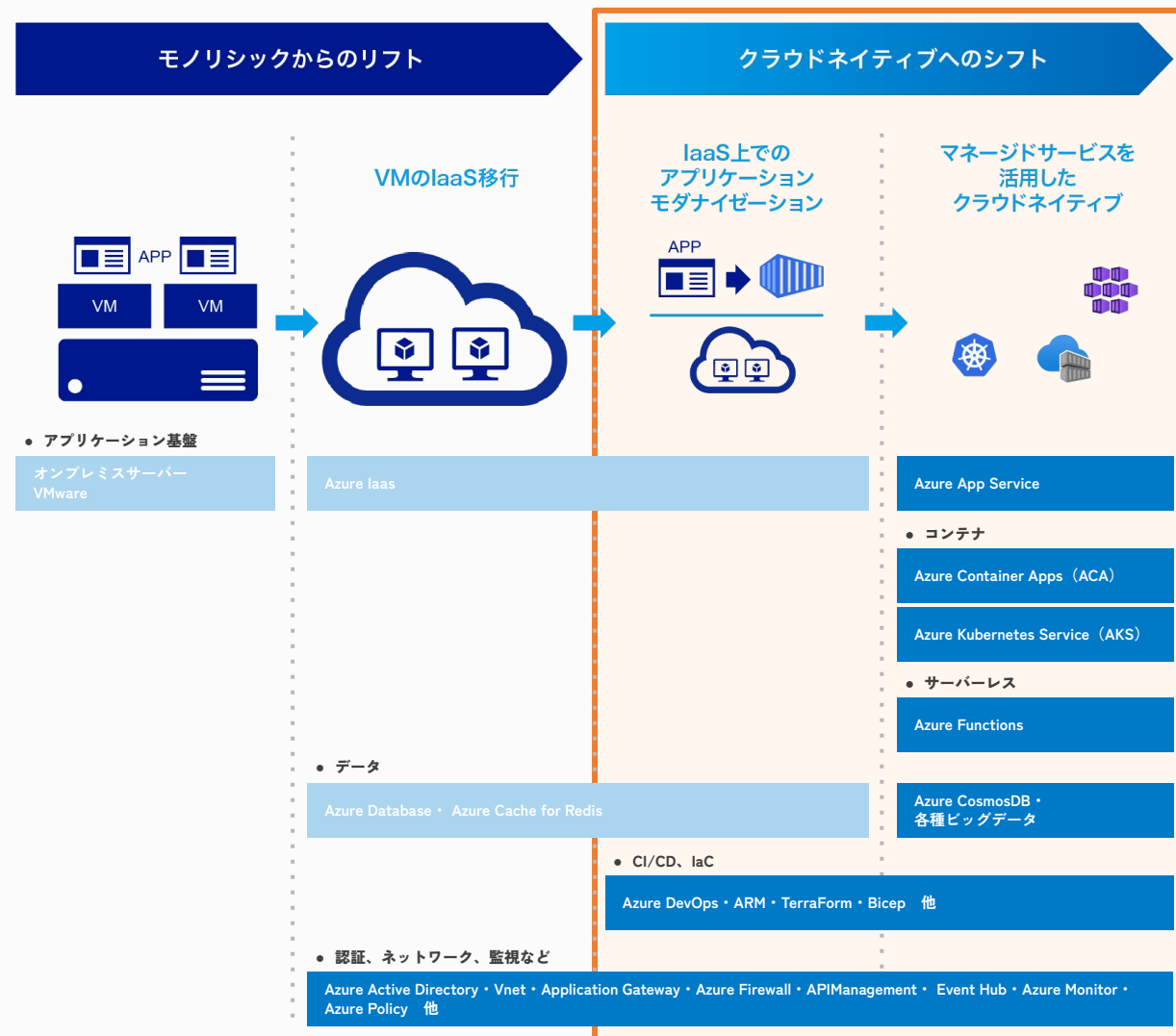
Platform Engineeringとは・・・？

Platform Engineering（プラットフォームエンジニアリング）とは、環境の変化が著しいプロダクト開発において、開発者がより良い機能の開発に集中し、これまで以上に速いスピードでプロダクトをリリースできるよう、開発者をサポートするための概念

Microsoft Azureでの アジャイル内製化を核に エンタープライズ企業の 攻めのDX推進を支援

ACS事業部の強みは、Microsoft Azure（以下 Azure）をベースにし、クラウドネイティブ技術の適用を並走支援にて提供することです。

昨今はここにAzureのAI系サービスも組み込まれております。



Mission

DevEx向上Platform No.1戦略

2027年までに内製化推進のキードライバーとして、
Platform EngineeringとAIを活用した
DevEx（開発者体験）向上におけるNo.1企業を目指します



+



+



=





事業内容

BUSINESS DETAILS

経済産業省のレポートでも「攻めのIT投資」の必要性が謳われていますが、企業は既存システムの負債・人材不足など様々な問題で攻めのIT投資に苦戦しています。

我々は、守りのIT投資から攻めのIT投資へのシフトをお手伝いすることを事業スコープにしています。

DX推進のために 投資すべき領域

- ①新規事業創出(SoE領域)

外部環境の変化に対応した俊敏性のある探索的なアプローチによる事業創造→クラウドネイティブ領域

- ②既存事業の業績向上(SoI領域)

既存の業務プロセスのデジタル化・データの活用による事業のデジタル化

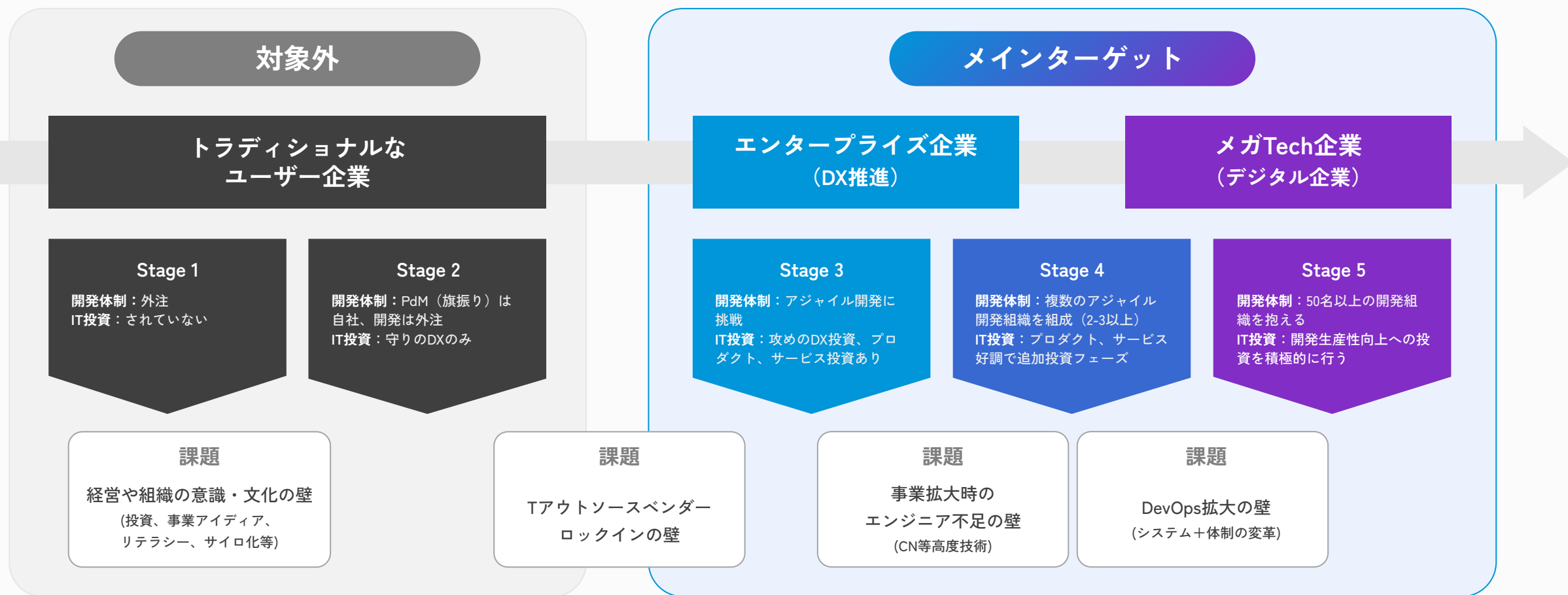
参考：独立行政法人情報処理推進機構（IPA）「[DX実践手引書 ITシステム構築編 完成 第1.0版](#)」 P76



出典：経済産業省「[DXレポート2](#)」より

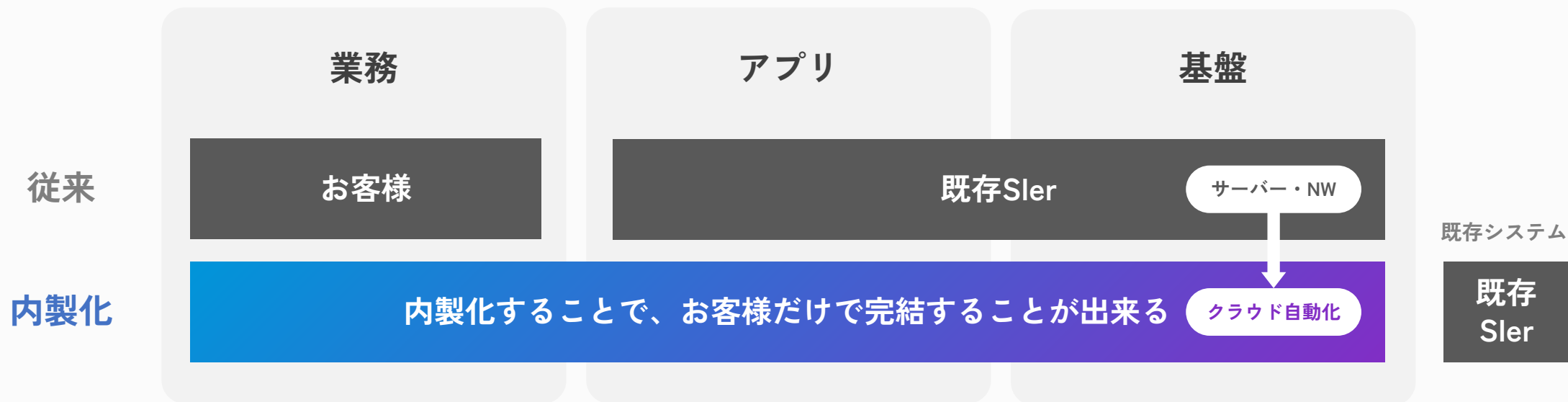
- 既存事業の見直しにより生まれた投資余力を、新事業の創出に当てる
- 両事業の投資バランスは、社内で予め決めておく

1. **開発組織** を自社で持っている
2. DX開発(DevOps/生成AI開発)への**挑戦*推進**が行われている
3. **Tech企業ではない**エンタープライズ企業



企業のデジタル化へのシフト、特に攻めのIT投資を成功させるためには、システム納品だけを行うSIではなく、新しい支援形態が求められてきています。

特にクラウド技術の進化により、業務・アプリ・基盤が緊密に結びつくようになり、**事業会社の内製化・共創や自動化**、**従来とは異なる形での既存Sierとの連携**が必要になります。



※私たちは、従来の慣例に捉われずに工夫と挑戦を行い続けることができるNeoSierを目指しています。

それに応えるため、ACS事業部では

「クラウドネイティブ内製化支援サービス
for Microsoft Azure」

を提供します

Ops

Platform Engineering推進支援

「Platform Engineering」の概念を軸に、顧客のPlatform Teamを対象としたチーム体制立ち上げ、内部開発者向けプラットフォーム（IDP）、ゴールデンパスの作成によるセルフサービス化実現を中心とした支援を行う。

Dev

共創型アジャイルSI → AI駆動開発者体験向上支援

顧客の開発チームをターゲットにPdMと弊社開発メンバーでアジャイルチームを構成し共創によるプロダクト価値の最大化を実現するプロダクト開発でのプロダクト成長において、開発者体験を向上するAI駆動開発の実践・関連ツールの導入（主にGitHub Copilot、Workspace、Space等）そのノウハウを横展開。

Data・AI

生成AI開発支援 → AI Powered DevOps

顧客のDX推進を行う開発チームをターゲットに、RAG/AI Agentなどの「生成AIを利用したアプリ開発」、「AIを組み込むアプリ開発」を中心とした技術支援を実施。また、組織に対してはAI AgentやAI開発におけるガードレール・標準化の仕組みを導入することで、アプリケーション開発者の体験向上を図る。

開発者ポータル

開発者ポータル「PlaTT」シリーズ

自社プロダクトとして、顧客のPlatform Teamを対象に開発者ポータル「PlaTT」及び、PlaTTに関する導入サービスやプラグインの導入・開発などを行う。

GitHub

DevOps導入支援サービス for GitHub Enterprise

GitHubが提供するVCS(Version Control System)としての機能だけでなく、CI/CDによるOpsの自動化、コードセキュリティの維持、開発環境の提供、AIによるコード補完などをうまく活用し、開發生産性の向上を実現します。

Ops

Platform Engineering推進支援

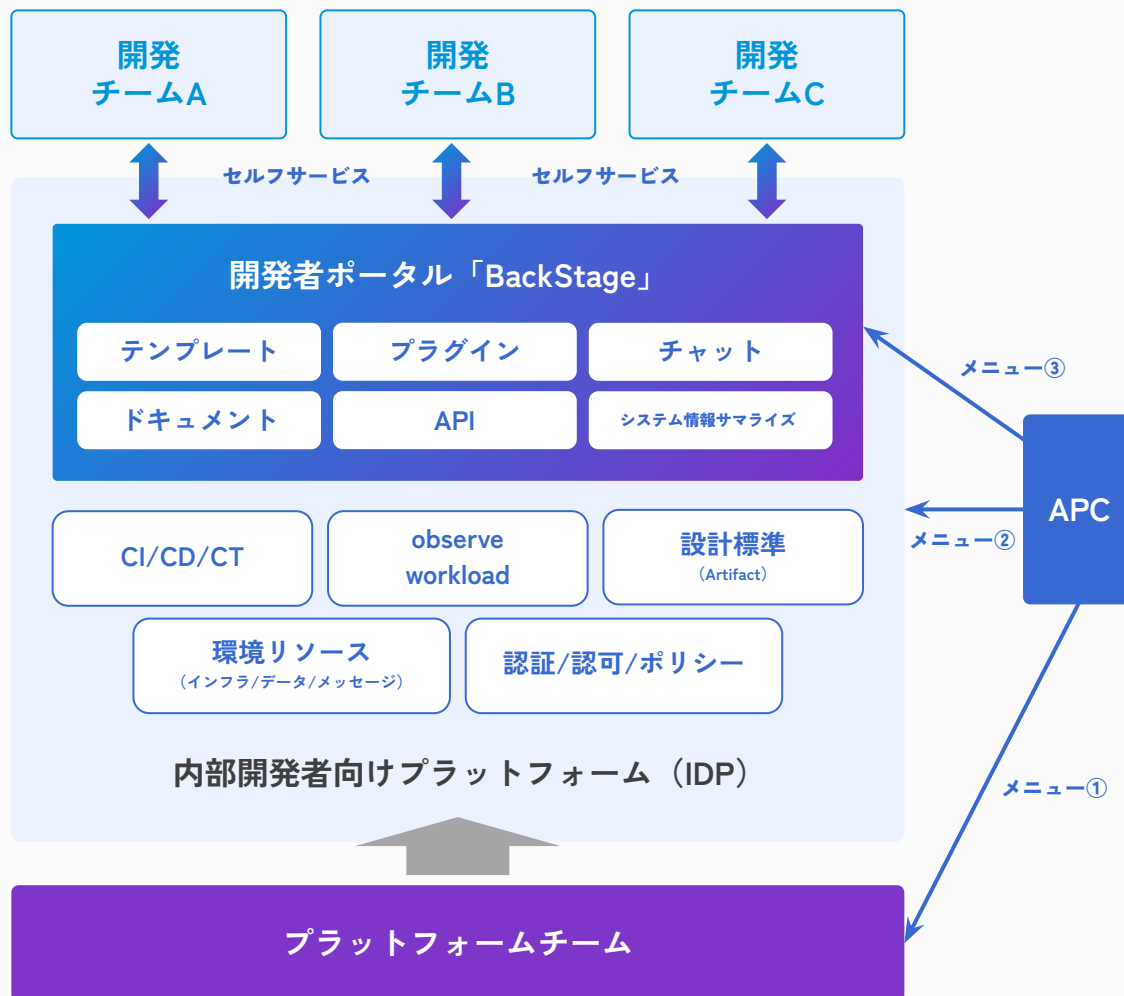
認知負荷の削減と開発者体験の向上

モダンで高速な開発に必要な、スキル/ツール/知識/標準/ポリシーなどを抽象化し、開発チームの誰もがクラウドネイティブの価値を享受しやすくする環境を構築。結果、開発組織のスケールとインフラチームの体制削減にも貢献します。

開発者ポータル「Backstage」を中心にご提供

PlatformEngineeringに必要な各種リソースを、開発者ポータルに載せる各種コンテンツとセットで提供します。

- メニュー①：プラットフォームチーム体制立ち上げ支援
- メニュー②：内部開発者向けプラットフォーム導入支援
コンテナ、CI/CD、DevOpsツール、等
- メニュー③：開発者ポータル立ち上げ支援/コンテンツ提供・保守
初期構築、PlugIn提供、Plugin開発、テンプレート、オンボーディングドキュメント、メンテナンス



Dev

共創型アジャイルSI / AI駆動開発体験向上支援

顧客の開発チームをターゲットにPdMと弊社開発メンバーでアジャイルチームを構成し共創によるプロダクト価値の最大化を実現します。プロダクト開発でのプロダクト成長において、開発者体験を向上するAI駆動開発の実践・関連ツールの導入（主にGitHub Copilot等）そのノウハウの横展開などを行います。

アプリケーション開発向けサービス

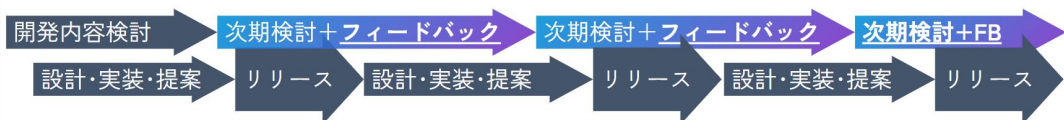
- 共創型アジャイル*SI支援
 - SoE向けアプリケーション開発
 - アジャイルメトリクス分析によるプロダクト改善
 - CI/CD/CTオートメーション
 - GitHub Copilotを用いた開発支援

参考：[共創型アジャイルSIサービス for Microsoft Azure](#)

AI駆動開発体験向上支援

- GitHub Copilot / Copilot Enterprise / Workspace 導入支援
 - GitHub認定トレーニング
 - GitHub Copilot生産性可視化支援
 - AI駆動開発プロセスアセスメント

参考：GitHubパートナー支援
Findy Team+ 支援



Data・AI

生成AI開発支援 / AI Powered DevOps

顧客のDX推進を行う開発チームをターゲットに、RAGなどの「生成AIを利用したアプリ開発」、「AIを組み込むアプリ開発」を中心とした技術支援を実施します。また、組織に対してはAI AgentやAI開発におけるガードレール・標準化の仕組みを導入することで、アプリケーション開発者の体験向上を図る。



ハッカソン型トレーニング Data/AI Lab

生成AIをどのようにシステムに組み込んでいけばよいか悩んでいるお客様向けに、RAGを中心に社内システムへ応用するためのアイディアソンから始まり、実践データを組み込んだアーキテクチャの設計とプロトタイプ構築までを1ヶ月の短期間でお客様の開発チームと二人三脚で並走支援します。



RAG/GraphRAGの実行/評価環境構築 ソフトウェアテンプレート

プロダクションレベルですぐに活用できるRAGの実行環境と評価環境の構築テンプレートを提供し、生成AIアプリ開発を迅速にサポートします。RAGの精度向上でお悩みのお客様に、人の思考ロジックを取り入れたナレッジグラフ技術を活用する新しいRAG、「GraphRAG」により精度向上を支援します。



AI Agent開発支援

お客様のアプリケーション及び開発プロセスの中で必要なAI Agentの作成支援と、AI Agentを量産するために必要となるテンプレート（セキュリティ・ガバナンス）を提供します。弊社開発者ポータル「PlaTT」からもご利用いただけます。

開発者ポータル

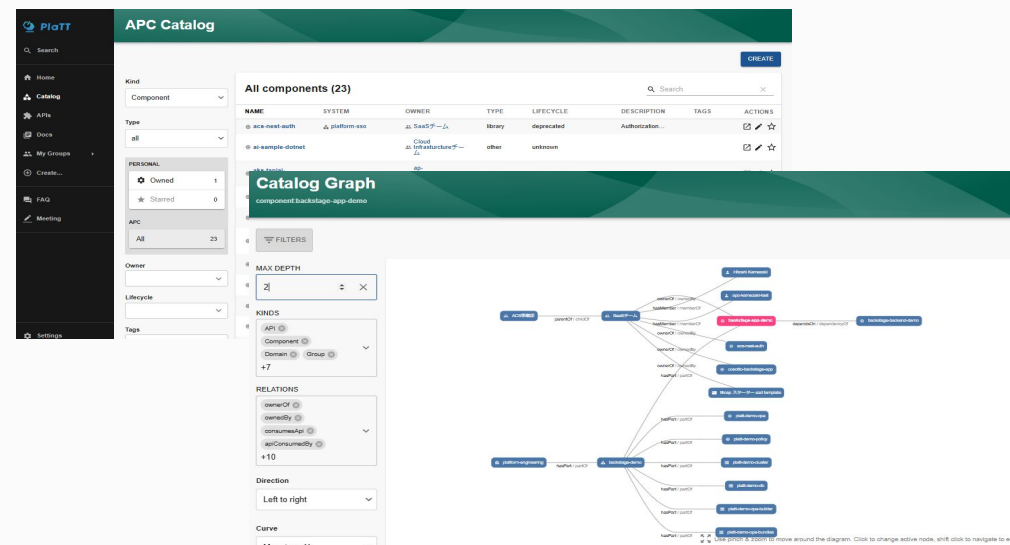
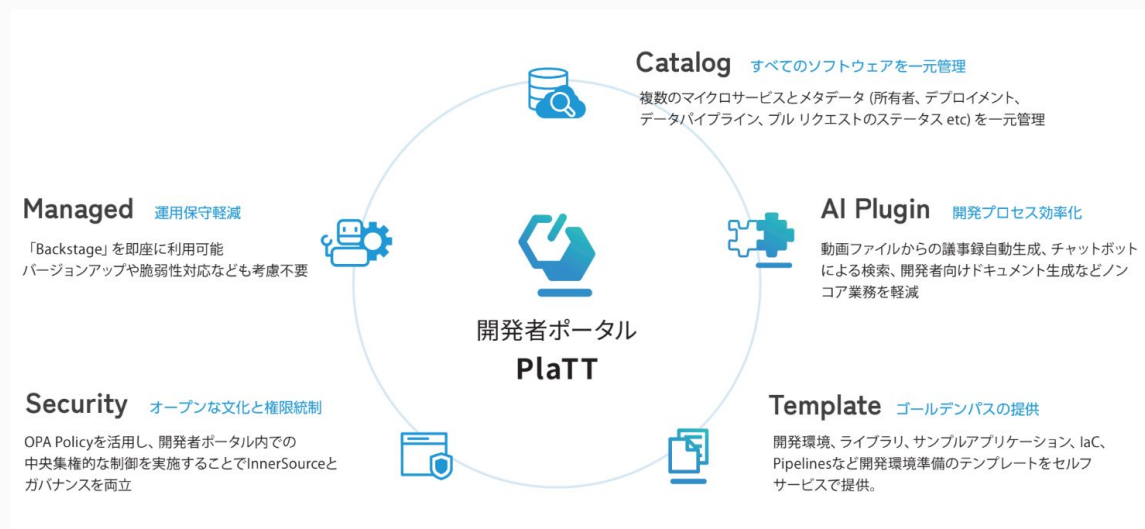
開発者ポータル「PlaTT」シリーズ

開発者ポータル「PlaTT」は、Backstageをベースにお客様の開発生産性向上を促進するためにAP Communicationsにて提供するサービスです。Backstageの機能に加え、独自のAI Pluginの開発、Platform Engineeringの文脈で語られるGolden Pathの個別開発、セキュリティを意識した個別の機能開発、マネージドによる運用、日本語ドキュメント化、ブログによる情報発信などを特徴としています。

Catalogによる可視化

セルフサービス基盤

150+ Plugin拡張性



GitHub

DevOps導入支援サービス for GitHub Enterprise



【このような課題をお持ちではありませんか？】

DevOpsは抽象的な概念であり、組織に浸透させるにあたり課題との可視化や問題分析ができておらず漠然と不安を抱えている

GitHubの運用に課題を持っている

- ・GitHubの運用が社内で統制できていない
- ・CI/CDパイプラインによる自動化がうまくできていない
- ・脆弱なソースコードや秘匿情報の管理などセキュアな仕組み化ができていない
- ・AIを用いた開発の効率化が図れていない

GitHub Enterprise 導入支援

エンタープライズ向けに展開されるGitHub Enterpriseを中心にお客様環境への導入支援を行います。

マイグレーション to GitHub Enterprise

他のホスティングサービス*でソースコードを管理しているお客様に、GitHub Enterpriseへのマイグレーションを支援します。リポジトリの移行では、ソースコードだけでなく、コミット履歴やPull Requestの詳細なども移行します。また、ご利用中のCI/CDワークフローのGitHub Actionsへ計画的な移行も合わせてご支援します。

GitHub認定トレーニング

GitHub認定の公式トレーニングを提供します。

GitHub Copilot for Business & GitHub Enterprise 活用支援パッケージ

GitHub Copilotのワークショップの開催と、GitHubソリューション全体をうまく活用するためのQ&A、レポート作成等を行うサービスパッケージです。

その他メニュー

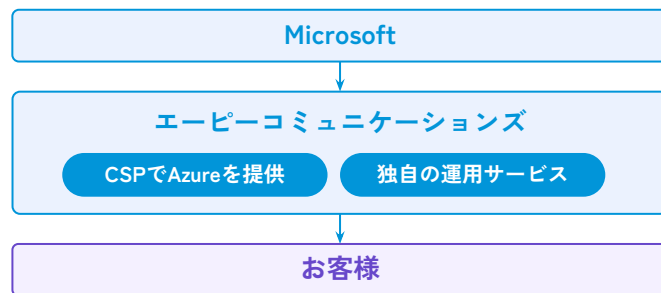
クラウド・ツール

役務だけの支援ではなく、お客様の開発チームと内製化を下支えするための各プラットフォームを提供します。
注目のBackstageをベースとした開発者ポータルだけでなく、AzureのCSPやクラウドネイティブと親和性の高いベンダープロダクトを
組み合わせて提供することが、新しい付加価値をお客様へ提供します。

Microsoft AzureのCSP提供

Microsoft Azureのサブスクリプションの月額請求と独自の運用サービスによる付加価値

InDirectモデル



ベンダープロダクトの提供

Dev系ツール



GitHub Enterprise



GitHub Copilot

自動化ツール



HCP Terraform

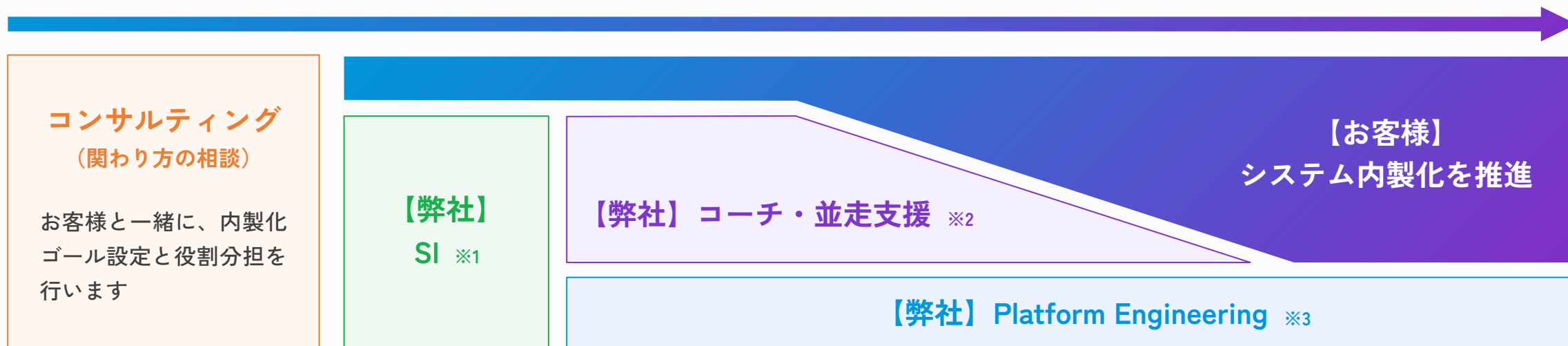


HCP Vault

SEI Platform

 Findy Team+

お客様とチームとなり、SI、アドバイザー、技術的支援を段階的に並走で支援することで、ベンダーロックインを防ぐとともに、高速な開発組織の構築を実現します。



※1：初期に必要なシステムを素早く構築支援します

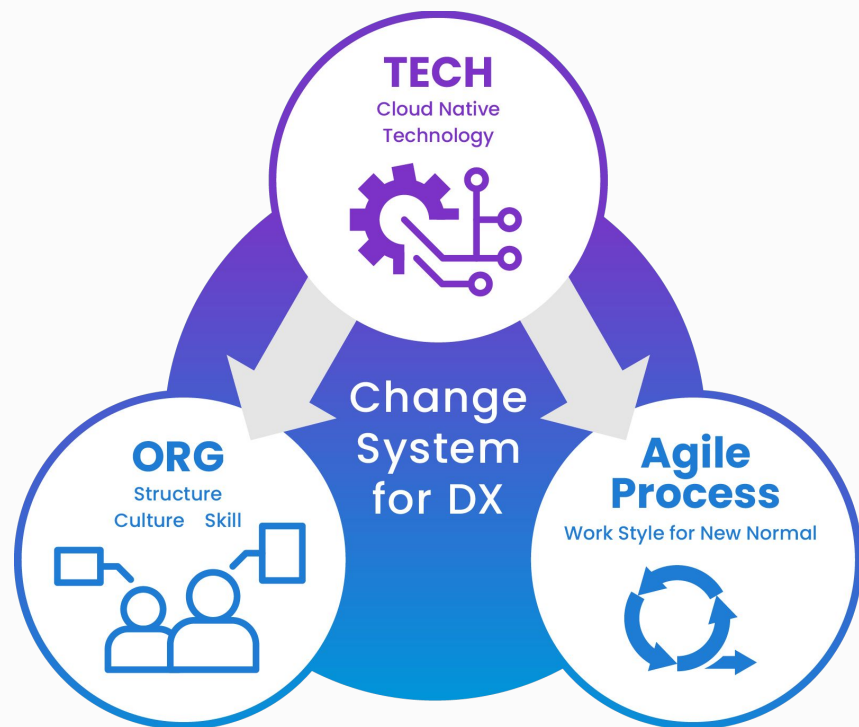
※2：クラウドネイティブ技術の専門家として、高速なアジャイル開発のチームに必要な技術・手法のノウハウを提供・システムを自動化。立ち上がり時間の削減を行います

※3：アジャイル開発チームが価値提供以外に必要な組織ガバナンス・セキュリティ・ナレッジなどの要素を可能な限りセルフサービス型のPlatformに変換し提供します

内製化を強化することで、お客様の手の内化の面積が広がります

私たちは一般的なITコンサル/SIではなく、
共に学び、共に成長し、共に成功する、新しいパートナーを目指しています。

Microsoft Azureのクラウドネイティブ技術を中心に、関連するアジャイルプロセス、組織モデルの最新知識を学び続け
お客様とチームとなり、デジタル型組織への変革・成長を実現していきます



Technology (Cloud Native Technology)

コンテナ・Azure Kubernetes Serviceを中心としたクラウドネイティブ技術、自動化技術、データ/AI技術の提供

Agile Process (Work Style for New Normal)

アジャイル、BizDevOps、CI/CD、Platform Engineeringなど、新たな開発や運用プロセスに向け既存プロセスの移行・変革を実現

Organaization (Structure・Culture・Skill)

新しい組織体制・組織文化、スキルセット/マインドセットを獲得

戦略と実績

STRATEGIC TRIUMPHS

我々は、戦略的な判断で、Microsoft Azureを選んでいきます

ユーザ企業の「攻めのDXの選択肢」としての強みがあるから

企業が攻めのDXを本格化させるためにはクラウドを選ばなければいけない。エンタープライズ企業はMicrosoft365、Entra ID、TeamsなどMicrosoft製品の**浸透率が高く**、既存データやプロセスとの連携も比較的しやすい。なお、グローバルでのAzureの**成長率**は近年AWSを超えている。特に昨今**OpenAIの分野で、大きく差別化を図っている**面も強み。

Microsoftはクラウドネイティブ・AI技術に注力しているから

k8sやPlatform Engineeringを推進するため、KEDA・DAPR・Radius等のOSSを発表、コミュニティ活動を推進。それらの活動をAzureContainerAppsというAzureのコンテナサービスに取り入れるなど投資姿勢がある。またGitHubを買収、OpenAIとの資本関係などクラウドネイティブ・AI技術に注力。

クラウドネイティブの領域で、パートナーシップを相互補完できているから

マイクロソフト様は歴史的にOSS・CloudNative関連のソリューションパートナーが少なく、そこを強みとする弊社は補完関係にあり、マイクロソフトとの連携が可能なポジションにある。

パブリッククラウドのソリューションのみならず、DevEXと親和性の高いDevソリューション、Platform Engineeringに関する様々なソリューションと組み合わせることで、さらなる付加価値をお客様に提供



Terraform Cloud/Enterprise, Vault Enterprise , Consul ...

クラウドインフラのプロビジョニング・保護・接続などの自動化や開発コスト削減を目的としたプロダクト。後述するプラットフォームエンジニアとの相性がよい。世界中の開発者からも人気の高いソリューションが多い。



GitHub Enterprise , GitHub Advanced Security , GitHub Copilotなど

コードリポジトリのみならず、セキュリティ対策やAIによるコード補完、仮想開発環境の提供など開発者にとってなくてはならないものに。日本で数社しかないサービスパートナーとして、導入だけでなく公式トレーニングも提供可能。



Findy Team+、次世代WAF（API）、k8s Backup



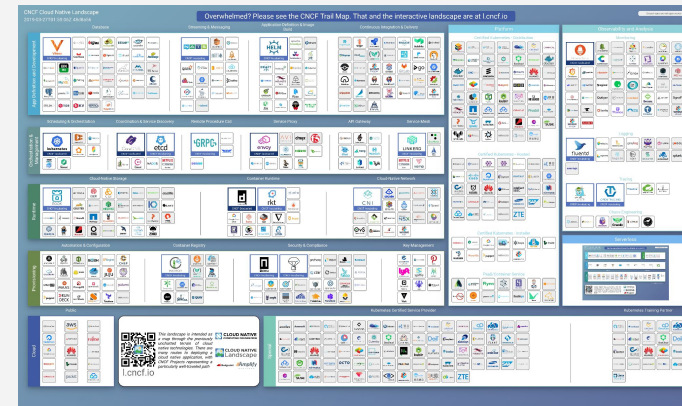
エンジニア組織の開発生産性可視化・向上するFindy Team+を活用。k8sのグローバルイベントであるKubeConなどに参加し、クラウドネイティブと親和性の高い最先端のソリューションを提供する企業とパートナーシップを推進。Wallarm、cloudcasaはどちらも日本初のリセールパートナー。

お客様への提供価値と エンジニアとしての喜びを 両立する

クラウドネイティブな技術スタックは既に膨大な数に達しており、それぞれが目まぐるしいスピードで成長しています。また、AIの台頭など世の中で必要となるムーブも移り変わっていきます。

我々はエンジニアとして常に最先端の技術をキャッチアップし、それをお客様に展開することで、技術の専門家として技術の価値の最大化を享受していただけるようにします。

膨大な数の技術スタック



引用：[CNCF CLOUD NATIVE LANDSCAPE](https://landscape.cncf.io)（エコシステム群）

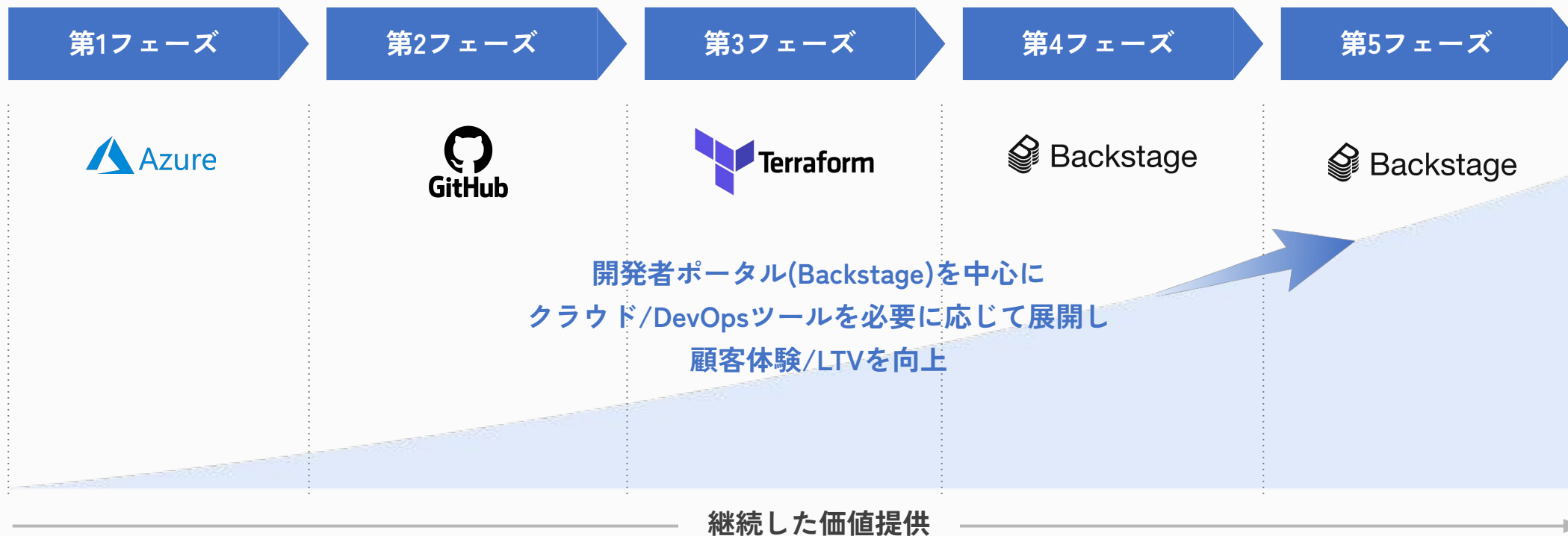
技術トレンドに合わせ高速に対応

ChatGPT普及からわずか数ヶ月で以下を実施

- Azure OpenAI Service導入サービスをリリース
- GitHub Copilotを開発委託業務内で利用
- 開発者ポータル付加機能の開発
- 社内でのAI活用ガイドラインの整備と利用促進
- Microsoft主催のパートナープログラムに賛同

Azure OpenAI Service
リファレンスアーキテクチャ
賛同パートナープログラム

Platform Engineeringを中心にビジネスに展開し、顧客に継続した価値提供を行っていきます。



継続した価値提供を行うことで、エンジニアは様々な技術に挑戦することが出来ます

その他事例は、[こちらのサイト](#)に掲載

共創型アジャイルSI支援

リアーキテクトやリファクタリング
といった「提案型支援」によって
プロダクト価値の最大化に貢献

SOLIZE株式会社 様

→ 記事は[こちら](#)



開発者ポータル「PlaTT」 シリーズ

Platform Engineering推進の一環と
して「Backstage」上にAIを
組み込んだFAQサービスを検討

NTTコミュニケーションズ 様

→ 記事は[こちら](#)



プラットフォームエンジニアリング 推進支援サービス

金融向けDevSecOps推進を支援。
開発者ポータル構築から
テンプレート導入までをサポート

日興アセットマネジメント 様

→ 記事は[こちら](#)



「Platform Engineering Kaigi 2024」 にてMicrosoftと共同登壇



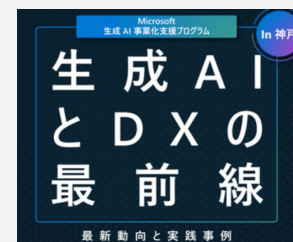
国内のPlatform Engineeringの大規模なConferenceに合わせ、「Backstage」と「Azure AIサービス群」を組み合わせた独自の開発者ポータル「PlaTT」をリリースし、Microsoft様と共同登壇を実施

直近のイベント登壇

日本マイクロソフト主催のオンラインイベント「[Microsoft Platform Engineering Day ~ アプリ開発を支えるプラットフォームエンジニアリングの最前線](#)」に当社エンジニアが登壇



[HashiCorp、イオンスmartテクノロジーとPlatform Engineeringに関連するイベント](#)を開催



日本マイクロソフト主催の生成AI事業部化支援プログラムで「[SOLIZE](#)」事例を発表

弊社のPlatform Engineeringへの 取り組み

- コミュニティ貢献
 - 日経クロステックPlatform Engineering/Codezine Platform Engineering寄稿連載寄稿([第2回](#)、[第3回](#))([第3回](#))
 - Platform Engineering Kaigi 2024 プラチナスポンサー出展 & Microsoftと共同登壇
- サービスリリース
 - 国内初、マネージドBackstage「[PlaTT](#)」シリーズ提供開始
 - 日本初、コマンド1つで開発者ポータルを試せるOSS更改「[ちょこっとBackstage](#)」
 - 開発者ポータルBackstageの検索プラグイン無償提供「[Search extension for Azure Cognitive Search](#)」

AKS、DevSecOpsに関する ホワイトペーパー

Enterpriseなセキュリティ要件を満たすAKS、[DevSecOpsに関するホワイトペーパー](#)をMicrosoft様と共同執筆。

有識でない方でも理解できることを念頭においたチュートリアル中心（サンプルコード付）の設計ガイドライン。

- 有償トレーニングとして出してもよいぐらいの出来（Microsoft CSA担当者様より）
- Microsoftセキュリティ担当の方からこちらの資料を紹介されました（弊社顧客ユーザー様より（AKS利用中））

「クラウドネイティブ・Platform Engineering・AIを選ぶ理由」



エンジニアのキャリアにとって面白いSIを（Engineer Driven）

エンジニアのキャリアにとって、「SIと自社サービス、どちらが良い？」という質問をされた経験が複数あり、エンジニアとも様々な観点で議論をしてきた経験があります。もちろんどちらにも良い面があり、最終的に答えは人それぞれですが、ここでは自分が感じるSIだからこそ実現できるエンジニアにとっての面白さの話を少々させてください。

技術やそれを活かすメソドロジーはあくまでツールであり、DevExなど顧客価値実現のために場合によっては技術以外の選択肢も必要です(それが正しくもあります)。とはいえ、SIerとしてEngineer Drivenを掲げる弊社ではあえて技術に拘り、そこを起点に顧客価値を最大化していくことを目指しています。

技術とその専門性がメインの武器であることに拘りエンジニアが技術を探し出し・選び・研ぎ澄まし、ビジネスにしていく。その過程をチームで実現していくことが、楽しく・エキサイティングと考えるからです。

クラウドネイティブ・Platform Engineering・AIなどを中心に技術や手法の可能性を広げるのも、その深く広い海を探索するのが「楽しいから」という思いがあります。技術は顧客課題を解決するツールでしかないのも事実でありますし、楽しいだけでもビジネスにはなりません。とはいえ、エンジニアの為にも、上記の思想をプラットフォームのようにして体現できるビジネスモデルを確立・発展させていきたいと考えています。

チーム情報

CULTURE



上林 大洋

Takahiro Kamibayashi

株式会社エーピーコミュニケーションズ
取締役 兼 ACS事業部長

所属

日本CTO協会 個人会員

PMI日本支部 プログラム/ポートフォリオ研究会所属

InnerSourceCommons 個人会員

事業責任者の熱い思いはこちら！

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9264#article>

趣味は登山、トレイルランニング、キャンプ、車、オーディオ、ゴルフも少々
(一応大学ゴルフ部でした)、ワイン好き、トイプードルx2飼ってます。最近は
キャンプと山とXGにはまっています。



Management3.0の考え方をベースに、自己組織化・内発的動機づけを意識した組織の設計と運営を行っています。
具体的なポリシーと手法の例は以下です。（※常にアップデートが行われます）

価値観

価値観を重視し、性善説に基づき可能な限り価値観ベースで運営を行っていく
実施内容：価値観を共有し、定期的に皆で振り返りを行う

野心的な目標（全社として推進）

自分たちが想像できる、先を目指し、創造性を高める
実施内容：OKRの運用

心理的安全性（全社として推進）

心理的安全性を高め、言いづらいことも言いやすくし(建設的な意見・邪魔しない)、事業の成功確率を高める
実施内容：Management3.0のワーク、WellDayの運用アンケート、対話会

学習する組織

振り返りを重視し、それぞれが学び良くしていく。それぞれが高めあう組織
実施内容：四半期や案件ごとのKPTの実施

技術ドリブン

技術は顧客課題を解決するツールだが、技術に対し常に貪欲に可能性を広げるエンジニア集団を目指す
実施内容：インプットやアウトプットの時間を2-3割、業務に時間に組み込める運営を目標

Stream Aligned Team

自己完結できる主体的なチーム運営体制
実施内容：チームとしてメニューの立案から顧客提供までを完遂するStream Aligned Team体制

Platform Team

手続きなどやナレッジ、立ち上がりの為の教育など、セルフサービス化を推進し、認知負荷を低減する
実施内容：上記をミッションとするPlatform Teamを設立、参入者のオンボーディングプログラミングの構築など

ジョインするメンバー全員が尊重すべき価値観を設け、これらを行動指針として掲げています。
マイクロマネジメントは行わない一方、これら価値観を常に意識した行動がメンバーには求められます。
四半期ごとにこれらの価値観に対してどうアクションできたか、見直す点がないかの振り返りも行います。

ACSにおける価値観の共有

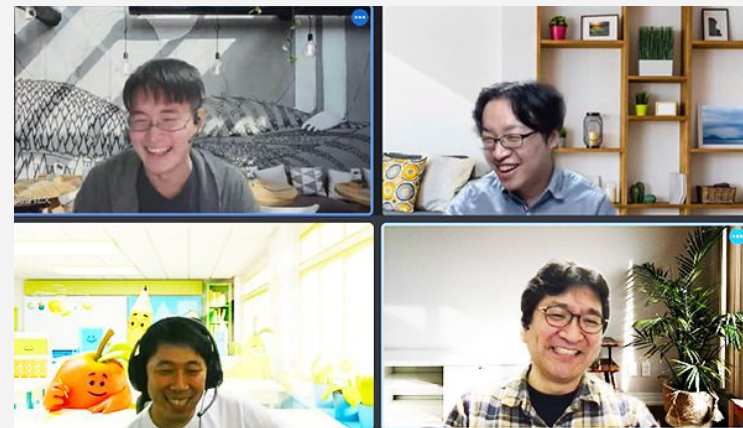
- ユーザー／顧客が喜びを得られることを軸に考える
- Agilityを大切に

1. どんなときも自ら楽しみを見つけに行く
2. チーム全体として価値を提供していく
3. メンバーが自律して活動する
4. 自ら成長・変化を求め続け、そのための学習は欠かさない
5. できるかぎり事実（収集したデータ）に基づいた判断をする
6. 相互尊重を大切にする
7. この定義も定期的に見直す
8. つねに部門の戦略を意識する

エンジニア座談会の風景

「Azureの魅力や習得の難易度、チームの価値観など」

[→ 座談会の記事はこちら](#)



「技術のインプットとアウトプットの時間に関するポリシー」



業務の2-3割をインプットやアウトプットの時間にすることを指す

世間ではSIは、エンジニアやコンサルタント各個人が自力で学習した知識を消費するビジネスモデルと言う方もいます。意見の真偽はさておき、自分自身「納品と言うリスクの中で新しい技術を使いづらい」「人月ビジネスの中で学習に時間を当てづらい」と感じてきました。

その状況を打破し、Engineer Drivenの理想を実現するために、事業としてエンジニアが技術に向き合える時間を明示的に確保することが重要だと考えています。

その為、ACS事業部では業務時間の2～3割を、その時間にあてることを指針として示しています。

常に新しい技術や情報をインプットし、お客様と共に学び、学びなおし、チームとしてアウトプットしていくことを推奨し、支援するための指針です。

これからの時代、会社組織は、組織が主、従業員が従という関係は変化していくと考えています。

社員が自己実現の為に利用可能な枠組み、プラットフォームのようになっていくのが理想です。

上記の業務時間の指針が枠組みとなり、その時間で発生するアウトプットが、自分たちの資産としてプラットフォームのコンテンツになる。そんな循環を支えるチームとプラットフォームを、チームメンバーと一緒に育てていきたいと考えています。

Engineer Drivenの一環として、技術blogを推進しています。
現在、年間40万PV/600本以上の記事掲載（2024年実績）を誇る会社オフィシャルの技術ブログがあり、
Microsoft AzureやKubernetes、Platform Engineeringなど様々な技術を扱っています。

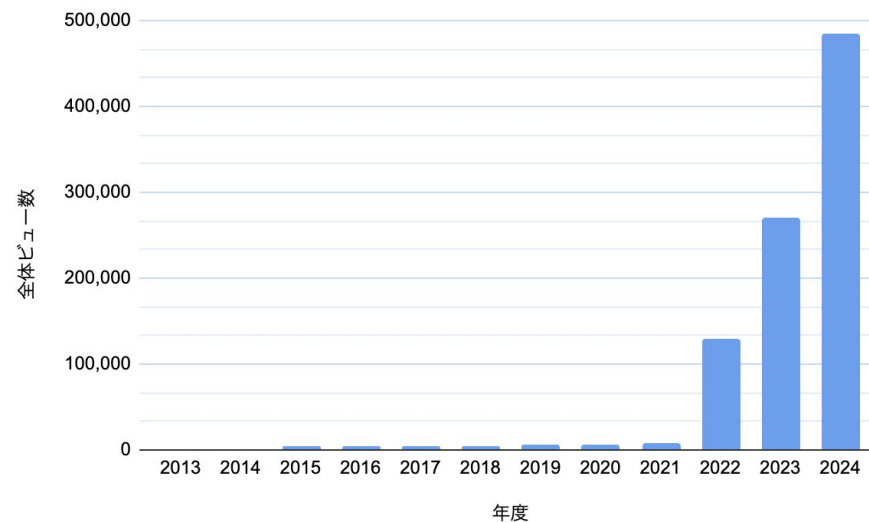
エンジニアが技術ブログを 作成しやすい環境を整備

- 技術ブログ執筆が業務時間内で執筆してよい（プロジェクトとは別工数で確保）
- Microsoft Build / Ignite や KubeConなどグローバルイベントが開催されるタイミングではリアルタイムレポートできる体制を事業部内で調整
- 検証環境などの払い出し



→ [「APC技術ブログ」はこちら](#)

年間PV数推移 (2013~2024)



ACS事業部ではTeam Topologiesを元にチームを設計しております。特徴としては、営業とエンジニアが分割されておらず、エンジニアが直接お客様とコミュニケーションをとり、ニーズを把握することです。

Enabling Team

特定のテクニカルドメインのスペシャリストから構成され、主にStream Aligned Teamが持っていない、必要な知識を取得するのを助ける。

GTM (Go to Market) 室

- ・マーケットとの対話/認知拡大/重要施策運営
- ・ Sales Enabling ・ コンサル/横串案件支援



戦略・知見提供による自律的活動の支援

Stream Aligned Team

価値のある単一の仕事のストリームに沿って働くチームで、顧客やユーザーに迅速に価値を提供することを目的とする。組織の根幹となるチームで、モダンなソフトウェア組織では大半のチームがStream aligned teamとなる。

Application Engineeringチーム

- ・ 開発支援

Data・AIチーム

- ・ 生成AI開発支援

Cloud Infrastructureチーム

- ・ CN基盤

SaaSチーム

- ・ IDP基盤 プラグイン開発



仕組み化・認知負荷軽減による活動促進の支援

Platform Team

内部サービスを提供することで、Stream Aligned Teamが下位のサービスを開発する必要性をなくし、自律的に仕事を届けられるようにすることでStream Aligned Teamの認知負荷を軽減する。

Platformチーム

- ・ 認知負荷軽減のための仕組み化



顧客

新しいメンバーへのオンボーディング施策を準備し、施策を通してストレスなく業務対応を可能にすることを目指しています。「組織の価値観」「戦略」「ルール」「プロセス」などを学ぶとともに、組織としての品質維持のため技術レベルを一定に保つためのプログラムです。

また、チームメンバーとの相互交流の為、事業部員全員の「パーソナルマップ」というツールを利用した歓迎会も実施しています。

チーム参加前

- **ビジネススキル研修**
 - ・期待値に応じたレベルの研修実施
- **IT基礎知識全般**
 - ・基礎情報技術者試験レベル
 - ・LinuxやGitコマンドなど
- **Microsoft Azure関連**
 - ・AZ-104レベル相当の基礎スキル

チーム参加後～1ヶ月

- **環境セットアップ**
- **業務/戦略理解**
- **クラウドネイティブ技術(共通)**
(Azure based)
- **チームに合わせた技術強化**
(コンテナアプリ開発/OpenAI etc)

1ヶ月後

- **事業部として**
業務研修や戦略に合わせた技術研修などの受講依頼
- **チームとして**
チーム戦略にあわせてスキルアセスメントをしオンボーディング計画や学習の動機付けをおこなう
- **個人として**
自身のキャリアプランに合わせて専門分野の開拓や資格取得など



上林 太洋

ACS事業部長 取締役

Azureのクラウドネイティブ/
データ/AI事業と一緒に成長さ
せて欲しい!

[→ 記事はこちら](#)



土居 幸平

ACS事業部 GTM室 室長

クラウドネイティブ内製化と
Platform Engineeringの推進が
ミッション!

[→ 記事はこちら](#)



亀崎 仁志

SaaSチーム
エンジニアリングマネージャー



谷合 純也

Cloud Infrastructureチーム
エンジニアリングマネージャー



本東地 英士

Platformチーム
エンジニアリングマネージャー

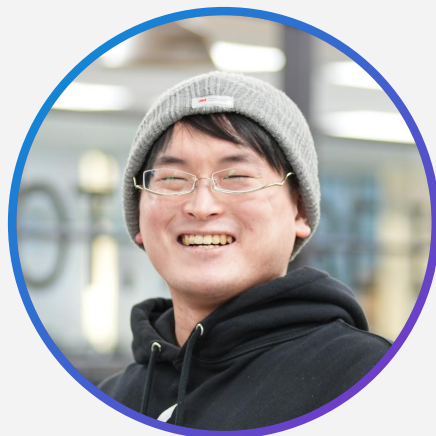


大久保

SaaSチーム

0からのモノづくり力が
推しポイント

[→ 記事はこちら](#)



高井

DX Enabling部

(コンサルティングチーム・Application Engineeringチーム)

「圧倒的成長」と「ポジティブさ」が
推しポイント

[→ 記事はこちら](#)

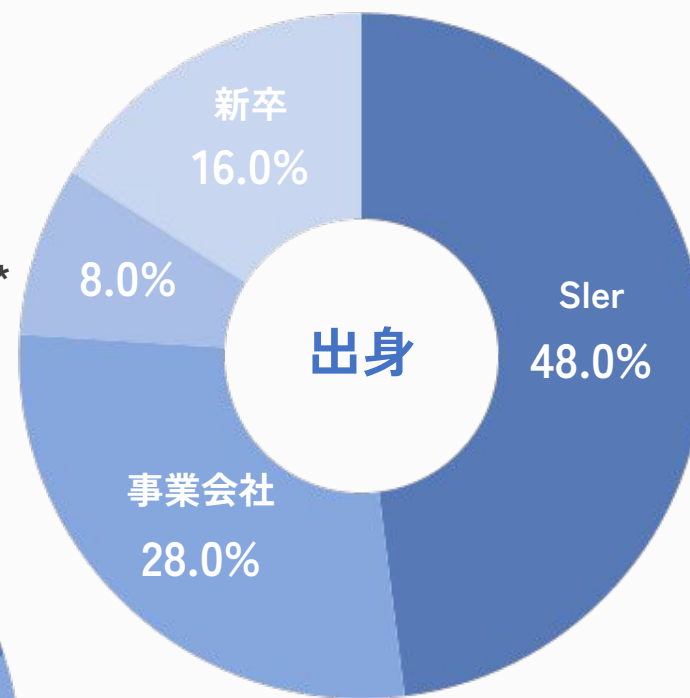
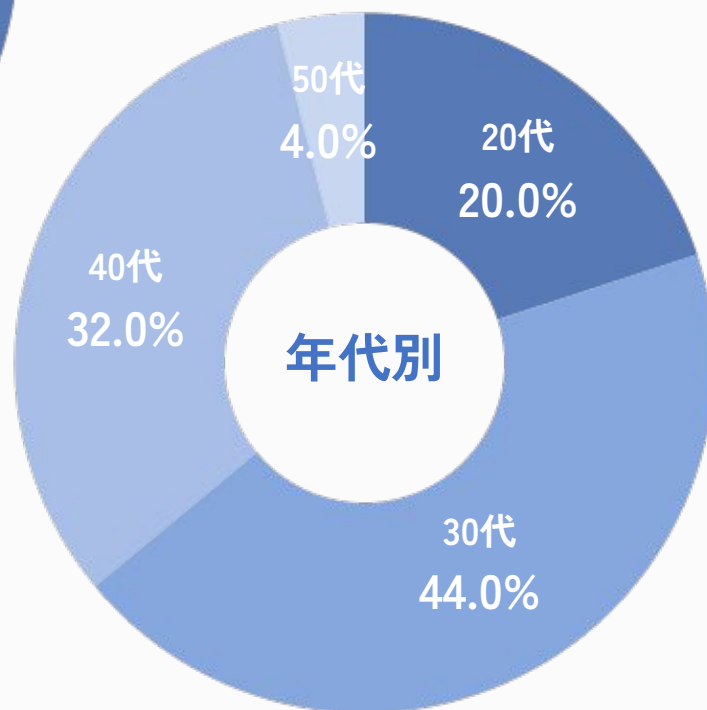
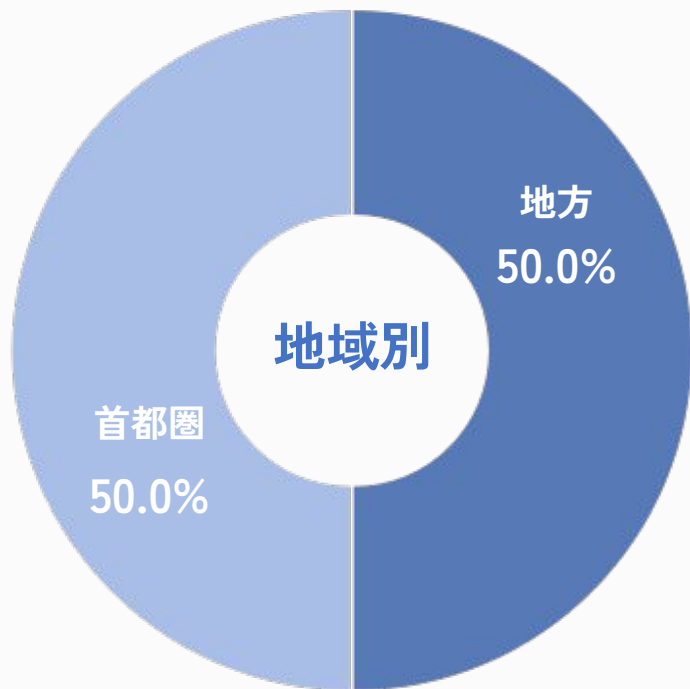


吉川

Cloud Infrastructureチーム

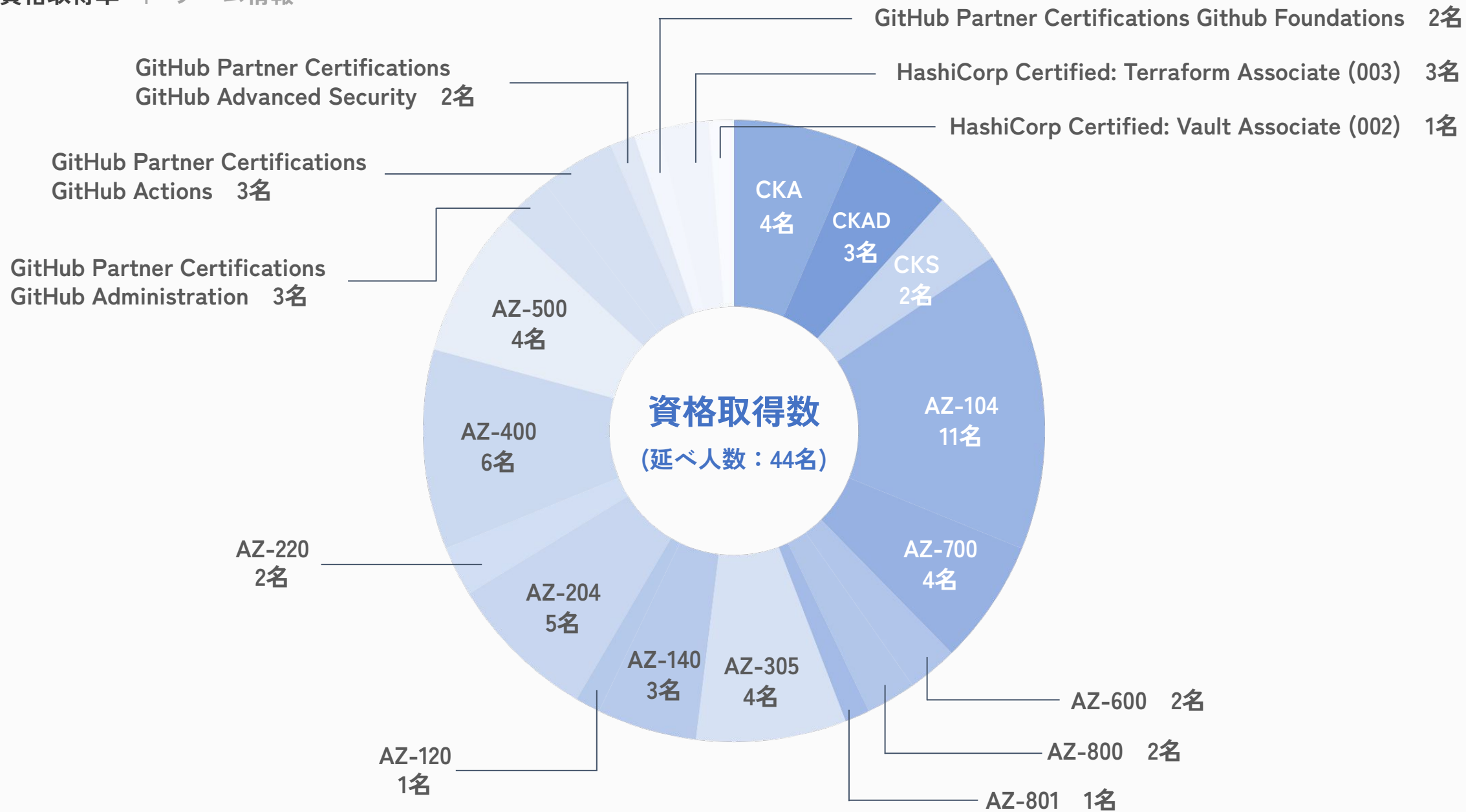
熱心な自己研鑽とコミュニティでの
活躍が推しポイント

[→ 記事はこちら](#)



サービス
事業者系*

*サービス事業者系は
メーカーを含みます





業務PC

- 開発環境
WindowsOS/MacOSが個人の意思で選択可能です。
- 開発支援ツール
2023/7現在、GithubCopilotやChatGPTの配布を実験中
※ACS事業部のみ



クラウド

- クラウド環境
事業部独自のAzureのクラウド環境が、利用可能です。
(ご利用は計画的に)



リモートワーク支援

- 在宅勤務手当(全社)
在宅勤務時に発生する光熱費やインフラ費用の一部を会社で負担する制度があります。
原則、1日あたり4時間以上在宅勤務をした場合に1日200円の手当を支給します。

地方在住でも活躍できる！ライフステージの変化とキャリア形成に悩むエンジニアへ

ACS事業部では、今後も原則フルリモートでの運営を決定しています。首都圏以外の地方から参画するメンバーも多く、成果に応じた昇給ができるため働く場所によるハンデはありません。

また、コミュニケーションには細心の注意を払い設計しており、非同期コミュニケーション、同期コミュニケーション、参加型イベントなどがあります。 [→ 事業部内で活躍する地方在住のエンジニアインタビュー記事はこちら](#)

非同期コミュニケーション

- Slackによる日常チャット
- Azure DevOps / GitHubによるタスクやIssueに対するComment

同期コミュニケーション

- Google MeetによるWeb会議（顔出し）
- Slack huddleによる雑談
- 1 on 1

参加型イベント

- 朝会、夕会、定例会議（KPTや戦略対話会など）
- 事業部キックオフ（年数回、オフラインで本社に集まる）
- Win Session
- All Hands Meeting（全社員向けライブ配信総会）
- 各種技術勉強会
etc...

人事制度

WORKFORCE MANAGEMENT SYSTE

評価は7つの項目で構成されています。

この要素の平均値ではなく**最も高い項目**で評価を行います。

これは、突き抜けた個性＝尖った強みを持った人間が集まり、各自の強みを活かし、かつそれぞれが連携することでチーム全体の能力が向上すると考えているからです。

評価制度の透明性を保つために、評価のルールから運用方法まで詳細に記載したマニュアルを全社員に配布しており、納得感のある評価制度を設けております。

社員の満足度向上のために、制度自体は毎年改善しており、マニュアルもデータ配布に切り替え、更新があった場合には再配布を実施いたします。

評価項目	評価
技術力	5
成果	3
ニーズ把握力	3
問題解決力	3
コミュニケーション力	3
事業貢献力	3
情熱	4
最終評価	5

1. 昇級目標の設定

1on1を通して、メンバーの希望と上司の要望をすり合わせ、上司と昇級目標を設定する

2. 目標達成の振り返り

1on1で上司と目標が達成できていたか振り返り、上司からのフィードバックをもとに、課題解決のサポートを受ける

3. 等級改定申請・申請支援

目標を達成した場合、振り返り内容をもとに上司に支援してもらいながら等級改定申請書を作成する

4. 上司（一次評価者）による評価

上司が申請書に対しコメントや推薦文を加筆する

5. 二次評価者・人事・経営による等級改定審査

申請者の取り組みが正しく伝わるように、上司が二次評価者に対し口頭や文書でデータを用いて補足説明する

6. 評価結果のフィードバック・新たな昇級目標の設定

上司から評価結果のフィードバックを受け、新たな目標の設定をする

査定機会は2月、5月、8月、11月の年4回設けています。 ※年4回必ず査定をする制度ではありません。

等級毎に基本給が定められていることで、誰でもわかる・納得できる制度を目指しています。

	等級								
号	1	2	3	4	5	6	7	8	9
8	使用しない	267,500	305,000	365,000	565,000	640,000	755,000	905,000	
7		260,000	297,500	350,000	550,000	625,000	725,000	875,000	
6		252,500	290,000	335,000	535,000	610,000	695,000	845,000	
5		245,000	282,500	320,000	520,000	595,000	670,000	815,000	965,000
4		237,500	275,000	312,500	505,000	580,000	655,000	785,000	935,000
3		230,000	267,500	305,000	490,000	565,000	640,000	755,000	905,000
2		222,500	260,000	297,500	475,000	550,000	625,000	725,000	875,000
1		215,000	252,500	290,000	460,000	535,000	610,000	695,000	845,000

- ※残業代は1分単位で支給
- ※管理職、管理職と同等の等級以上は給与に40時間分の固定残業代が含まれます
- ※固定残業代は等級・役職によって異なります

福利厚生

WELFARE

「社員に寄り添う」がコンセプトの福利厚生制度 「With APC」

「With APC」とは「エンジニアとお客さんを笑顔にする」という企業理念のもと、「社員に寄り添う」をコンセプトに構築された福利厚生制度です。新たなメニューの追加や内容の見直しを随時行なっております。



WorkPlace

社員の働く環境に寄り添う

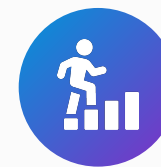
- ・ 地方リモート勤務制度
- ・ 住宅補助（新卒）
- ・ 在宅勤務手当
- ・ コワーキングスペース



Health

社員の健康に寄り添う

- ・ 復職支援
- ・ 健康診断
- ・ 健康診断 通院支援制度
- ・ 傷病見舞金制度



SecondStage

社員の人生に寄り添う

- ・ 確定拠出年金制度
- ・ 定年後再雇用制度
- ・ 投資勉強/FP相談



Self Study

社員の学習へ寄り添う

- ・ 書籍購入（技術書）
- ・ 資格受験費



Onboarding

社員の仕事へ寄り添う

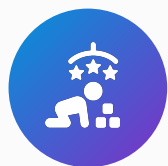
- ・ 入社サポート休暇
- ・ 異動時フォロー



Family

社員の家族へ寄り添う

- ・ 結婚出産のお祝い
- ・ 社員の子供の節目でお祝い



LifeCare

社員の生活へ寄り添う

- ・ 介護支援制度
- ・ 育児支援制度



Refresh

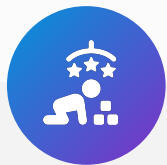
社員の休みに寄り添う

- ・ リフレッシュ休暇
- ・ 各種休暇制度

今後も続々リリース予定！
実際の事例は次ページ



「With APC」制度の一部をご紹介します！



「育児休業取得奨励金」 制度を開始

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9181>



お子様の入学お祝い制度 「For Kids」を開催

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9196>



フルリモート勤務制度

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/8404>





DE&I推進室・Well-being推進室の設置

(DE&I : Diversity, Equity and Inclusion)



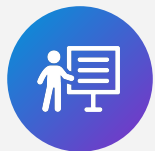
D&I AWARD 2023 「アドバンス企業」認定

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/10013>



2023年度版「働きがいのある会社」認定

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9855>



アンコンシャスバイアスやLGBTQなどをテーマとしたダイバーシティ研修の実施

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9400>



社員同士の背景や価値観の違いを理解するランチタイムイベント「DE&I Talks」の実施

<https://www.ap-com.co.jp/blog/archives/9828>

採用について

RECRUIT

基本情報 | 採用について

勤務時間	所定労働時間 7.5時間
休日・休暇	日曜, 土曜, 祝日, 夏季, 年末年始, 介護, 育児, 産前・産後, 慶弔, リフレッシュ等、年間休日120日以上 ＜入社サポート休暇制度＞ 初回の有給休暇付与までの期間で、入社後慣れない環境により体調を崩したり公的な手続きの実施が必要な場合に取得できます。
賃金形態	日給月給制
時間外労働	有 ※1分単位で支給 ※管理職、管理職と同等の等級以上は給与に40時間分の固定残業代を含めます ※固定残業代は等級・役職によって異なります ※全社平均残業時間は20時間程度となっております
賞与	決算賞与あり

昇給	年4回の査定機会あり ※年4回の査定期間内に上長との1on1等をもとに、各個人が昇給申請を行います。 年4回必ず査定をする制度ではありません。
その他手当	・家族手当（配偶者）：月額15,000円 ・家族手当（子供）：1~2人目は月額5,000円、3人目以降は月額10,000円/人 ・通勤手当：上限35,000円/月 ・在宅勤務手当：1日4時間以上のテレワークで200円/日など
福利厚生	各種社会保険完備 企業型確定拠出年金制度 契約保養施設利用可 福利厚生倶楽部利用可 部活動支援制度「apclub」 入学お祝い制度 傷病見舞金制度 健康診断 通院支援制度 育児休業取得奨励金あり コワーキングスペース利用可 等



- ご応募の前に相互理解を深めるためのオンラインでの「カジュアル面談」も対応させていただきます。



- 内定後は一週間後を目処に回答いただけると幸いです。
回答期限についてご希望がある場合は柔軟に対応させていただきます。
- 他社と迷われている場合や、何か不安点がある場合は「オファー面談」にて懸念点の解消を行いますので、お気軽にご相談ください。

A smiling man with dark hair, wearing a grey sweater with a complex geometric and abstract pattern. He is standing in a modern office environment with large windows and industrial-style lighting in the background.

Join Our Tech Revolution!

一緒に開発の未来を変えませんか？

面談は随時行なっております。

詳細は採用ページをご確認ください

<https://hrmos.co/pages/ap-com/jobs/0000007754>